

平成29年度

南アルプス市教育委員会
点検及び評価報告書

【平成28年度事務事業分】

平成29年8月

南アルプス市教育委員会

目 次

I 点検及び評価について

- 1 趣旨 1
- 2 点検及び評価の対象とした事務 1
- 3 評価の点数表 1

II 点検及び評価のまとめ

- 1 教育委員会の活動に対する点検及び評価 2
- 2 教育委員会事務局の事務事業に対する点検及び評価 2

III 教育委員会の活動についての点検及び評価

- 1 教育委員会の活動状況 7
- 2 教育委員会の活動に対する点検及び評価 10

IV 教育委員会事務局の事務事業についての点検及び評価

- 1 教育委員会事務局の事務事業について 12
- 2 第2次南アルプス市総合計画 体系（教育委員会関係抜粋） 13
- 3 教育委員会事務局の事務事業に対する点検及び評価について 14

I 点検及び評価について

1 趣 旨

南アルプス市教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の報告書を作成し、南アルプス市議会に提出するとともに、市民の皆様に公表をしています。

これは、教育委員会の責任体制を明確化するため、平成 19 年の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正において義務付けられたものです。

南アルプス市教育委員会では、自らが点検及び評価を行った結果を、今後の事務の執行に反映し、効果的な教育行政を推進してまいります。

2 点検及び評価の対象とした事務

(1) 教育委員会の活動に関する点検及び評価

委員自らが教育委員会活動の内容を振り返り、評価を行った上で評点し、意見を記載しました。

(2) 教育委員会事務局の事務事業についての点検及び評価

南アルプス市では南アルプス市総合計画の進行管理を行うための手法として、行政評価システムを取り入れ、すべての事務事業に対して「事務事業マネジメントシート」を作成し、内部評価を実施しています。

点検及び評価に関しては、この行政評価システムを活用し、南アルプス市教育委員会に属する事務事業の執行状況等について振り返り、取りまとめを行いました。

ただし、事業選択や予算規模に自由裁量がない「国・県の制度による義務的事業」や「義務化されている協議会等の負担金に係る事業」については、対象外としました。

- | |
|-----------------------------------|
| ①事務事業総数：221事業 |
| ②点検及び評価した事務事業：165事業 |
| ③点検及び評価から除いた事務事業：56事業 |
| ※義務的事業及び義務化されている協議会等の負担金に係る事業を除く。 |

3 評価の点数表

評価の点数は、「5」から「1」までの5段階評価で行いました。

5	目的をはるかに超え達成、他への波及効果などが見られる。
4	目的以上に達成
3	目的どおり達成
2	目的までは達成できなかった。
1	目的までまったく達成できなかった。

II 点検及び評価のまとめ

1 教育委員会の活動に対する点検及び評価 (10 ページ) 評点平均 : 3. 3

教育委員会定例会を 12 回、臨時会を 1 回開催しました。会議では、規則等の制定改廃、重要案件の協議、教育委員会所管の各種委員会等の委員の選任を行いました。

教育委員会事務局業務では、教育委員会定例会や総合教育会議等で効率的な会議運営を図るため、出席者に対し、議案や資料を事前配布しました。

研修会等への参加や学校訪問では、教育行政課題への対応、学校現場の現状と課題の把握ができました。

2 教育委員会事務局の事務事業に対する点検及び評価

(1) 基本政策 : 1 安全でみどり豊かな人がつながるまちの形成

施策名 : 02 市民参加のまちづくり (14 ページ) 評点平均 : 3. 0

「青少年対策事業」の国内交流・交流支援事業では、夏休みの期間を利用し、姉妹都市の児童生徒による交流を行いました。

石川県穴水町との国内交流事業は、小学校 6 年生による訪問団派遣を行い、穴水町の小学生との交流を行いました。

東京都小笠原村との国内交流事業は、中学校による訪問団派遣を行い、荒天により滞在期間の延長がありましたが、小笠原村の中学生との交流を行いました。

北海道津別町との国内交流事業は、津別町小学生訪問団の受け入れにより、小笠原小学校児童との交流を行いました。

訪問団派遣及び訪問団受け入れにおいて、子どもたちとの交流では相手先の地域を知ること、改めてふるさとの良さを発見し、お互いの地域を認め合い、子ども同士の友情も育まれました。

(2) 基本政策 : 4 心豊かな人と文化をはぐくむまちの形成

施策名 : 19 生涯学習の振興 (14 ページ) 評点平均 : 3. 1

「公民館運営」では、公民館の館長、主事が中心となり、地域の実情にあった公民館活動を実施しました。また、「生涯学習推進事業」では、数多くの学習機会の提供や、自主的な学習の支援に努めました。今後も、文化財課、市立図書館、市立美術館と連携した講座や講演会を開催していきたいと考えています。

「スポーツ推進委員運営事業」、「南アルプス市体育協会支援事業」では、スポーツ推進委員及び市体育協会への支援により各種のスポーツ教室と大会が開催され、多くの市民が参加しました。

今後も生涯を通じてスポーツを楽しむ市民行動の定着に向け支援を行っていきます。

「各種社会教育施設」では、直営施設及び指定管理者制度導入施設ともに、効率的な管理運営に努めました。

「市立図書館」では、「ブックスタート」「おはなし会」など、子どもたちが小さいときから読書に親しみ、読書習慣を身につけられるような事業を展開しました。また、一般向けには、「シニア講座」、「教養講座」、「ビジネス支援講座」などを開催し、市民の幅広いニーズを支援しました。

楡形図書館は、改修・整備を行い、平成28年10月1日から中央図書館としてリニューアルオープンしました。同時に月曜日開館や読書通帳サービスも開始し、市民サービスの充実を図りました。また、「ふるさと人物室」も同時開館し、近代を中心に活躍した南アルプス市にゆかりのある人々を紹介し、ふるさと教育を推進しました。

甲西図書館においては、隣接する甲西支所入口ホール部分を改修し、図書館部分を67㎡増床、市民が利用しやすい読書環境にしました。

(3) 基本政策 : 4 心豊かな人と文化をはぐくむまちの形成

施策名 : 20 歴史・伝統文化の振興 (19 ページ) 評点平均 : 3.1

本施策では、市民共有の財産である、市内の歴史的・文化的資源の適切な保護と資産の存在を知っていただくとともに、活用するための教育普及事業を展開しています。

「文化財の保護」については、所有者・管理者への適切な助言等を行いました。

また「教育普及事業」において、平成28年度は実施数250回、のべ参加人数13,720人でした。

内訳は、小中学校等において説明を行った回数が159回、教職員向けの研修が12回、その他一般向けの講座等が79回でした。

「ふるさと教育」を積極的に行った結果、小中学校向けの事業実施件数は過去最高になるとともに、地域からのニーズも高い状況にありました。今後も当該事業を継続し、事業における効率化など検討してまいります。

「埋蔵文化財」については、地域における公共事業や民間開発と調和した遺跡の保護を図るため、適時適切な試掘確認調査等の実施に努めます。

「保存活用整備事業」による親しみやすいイベント等の実施やガイドブックの刊行などに取り組み、その価値の周知に努めました。

また、市内出土の重要文化財、鋳物師屋遺跡出土の「円錐形土偶」のキャラクター「子宝の女神 ラヴィ」を多方面に展開し、平成28年度では、ミュージアムキャラクターアワードにおいて全国2位となり、全国的に本市をPRすることができました。

「ふるさと文化伝承館」の入館者数は、リニューアルオープン以後、来客数は増加傾向にあり、

今後も地域の歴史的・文化的資源の保管機能を維持しつつ、毎年新たな企画に取り組んでまいります。

「安藤家住宅管理運営事業」及び「イベント事業」では、重要文化財としての「安藤家住宅」の価値を損なわないよう適切な管理を行い、地域文化発信の拠点としての活用を図っています。

平成 28 年度において、入館者数は前年度と同程度となりましたが、イベント入館者数については 12% 増となりました。

安藤家住宅は、前回の保存修理事業から 9 年を経て、一部経年による劣化も見られることから、県の補助事業により茅葺屋根の修繕等を実施しています。

今後も多くの方に来館していただくとともに、重要文化財としての本質的価値を損なわないよう適切な管理・運営に努めます。

「フィールドミュージアム推進事業」は、事業名を「ふるさと〇〇（まるまる）博物館事業」と定め、市民参加のワークショップを重ねた後、基本方針が策定されました。

スタートアップイベントでは市民とともにフィールドワーク（＝まち歩き）等を行い、事業周知を図りました。

(4) 基本政策 : 4 心豊かな人と文化をはぐくむまちの形成

施策名 : 21 学校教育の充実 (21 ページ) 評点平均 : 3. 1

「学校給食費支援事業」では、小中学校へ 3 人以上の子どもが通っている保護者に対し助成を行いました。

「各学校給食」では、アレルギーマニュアルを策定し、児童・生徒のアレルギー食への対応をマニュアルに基づき実施しました。

給食費の未納については、教育的な配慮により督促をしながら、給食費の徴収を行いました。

また、児童手当を受けていながら給食費を滞納している保護者からは同意を得た上で、児童手当からの徴収を進めています。

「育英奨学会事業」では、適正な事務の執行に努め、目的に合致した奨学生の選考を行いました。

「就学援助事業」においては、小中学校に通う経済的に、恵まれない児童・生徒への適切な支援を行いました。

「市単講師派遣事業」では、34 名の市単講師を小中学校へ配置し、多人数学級対応と複式学級の解消及び特別支援教育推進、基礎学力の向上、一人ひとりの特性に応じたきめ細かな指導等への対応を図りました。特別な支援を必要とする児童生徒は増加傾向にあることから、今後も、教育支援センターを含めた体制の整備充実を図ってまいります。

「教育支援センター事業」では、学校へ登校することが困難な児童生徒が通う適応指導教室を設置し、家庭や学校と連絡を取りながら学習支援、教育相談を行い、学校復帰を目指しました。

「外国語指導講師配置事業」では、小学校の「外国語活動の時間」における活用を含め小中学校に9名のALTを配置し、「聞く・話す」ことを中心に指導を行い児童生徒のコミュニケーション能力の向上を図ることや、生の英語に触れるなかで他国の文化や外国語（英語）に親しみをもたせ、国際的な理解を深めることができたと考えます。また、小学校外国語活動研修会を実施し、小学校教職員の指導内容の充実を図ると共に、ALT指導研修もを行いALTの指導内容の向上も図ることができました。

「市指定研究事業」では四つの指定校研究事業に取り組みました。一つ目は「学びの質を高める授業づくり推進事業」です。2年目、2校の指定校（楡形中、南湖小）、1年目、1校の指定校（若草南小）を定め、児童・生徒が互いの考えや表現を聴き合い学ぶ合う授業作りについて研究を行いました。

二つ目は「南アルプス自然体験推進事業」です。ユネスコエコパークに認定されている芦安小・中学校を指定し、南アルプスの自然を舞台とした各種の体験活動や登山を実施し、人間性やふるさとを愛する心を育む取り組みを行いました。

三つ目は「いじめ・不登校未然防止推進事業」です。Q-Uテストや講演会を実施し、支援を必要とする児童・生徒への早期対応を行いました。

最後は「授業改善プラン実践事業」です。諸調査を通して実態を把握し、外部講師を招いた校内研究会で課題解決に向けての手立てを探りました。また、平成27年度より県の英語教育強化地域拠点事業（白根巨摩中、白根飯野小、白根東小、白根高校）の指定を受け進めている英語教育の高度化に向けては、新学習指導要領で実施される、小学校高学年の外国語科、中学年の外国語活動の授業改善に向けて取り組みました。

「教育の環境づくり費」では、地域の素材「小笠原流礼法」を小中学校の授業に取り入れ、心の教育の充実を図りました。また、「スクールガードリーダー事業」や地域ボランティアを活用した「学校応援団育成事業」に取り組み、児童・生徒の安全確保や学校教育活動全体の充実を図りました。さらに、「姉妹都市交流プロジェクト推進事業」では、国際化が進む中、話せる英語を身につける必要性から小学生対象の英語体験プログラム「イングリッシュキャンプ」を実施しました。参加者は、昨年度より30名ほど増加しました。

(5) 基本政策 : 4 心豊かな人と文化をはぐくむまちの形成

施策名 : 22 青少年の健全育成 (28 ページ) 評点平均 : 3.3

「青少年対策事業」では、青少年育成南アルプス市民会議への支援、各種子どもまつりへの支援、子どもクラブへの支援を行い、心身ともに健やかな次代を担う青少年の健全育成を図りました。

また、「成人式挙行事業」においては、桃源文化会館に608人の新成人を招き、成人の門出を祝いました。

地域の子どものリーダーとして活躍できる子どもを育成する目的で開催している「ジュニアリーダー養成事業」においては、中・高校生を対象に月1回のリーダー研修を開催しました。また、夏休みには研修を受講したジュニアリーダーに新たなジュニアリーダー候補として小学6年生を加え宿泊研修を実施し、前年度を10%上回る66名の参加がありました。

Ⅲ 教育委員会の活動についての点検及び評価

1 教育委員会の活動状況

教育委員会は、教育行政の中立性・安定性を確保するため、地方公共団体の長から独立して設置されています。

平成27年4月1日施行の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」により現在、教育委員会の構成は教育長と5人の委員で構成しています。

(1) 教育委員会の定例会・臨時会

教育委員会は、定例会を原則、毎月開催しており、合議により教育行政の基本方針や重要事項などを審議し決定しています。

また、必要があるとき、随時、臨時会も開催しています。

○開催状況・定例会 12回、臨時会 1回

開催月日 (区分)	案件区分	件名
4月8日 (定例会)	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・南アルプス市教育委員会年間（前期）及び4・5月行事予定について ・緊急連絡網について ・指定学校変更願の報告について
4月28日 (臨時会)	議事	<ul style="list-style-type: none"> ・南アルプス市の教育振興プランを策定することについて ・南アルプス市の教育振興プラン策定委員会要綱の制定について ・指定学校変更の許可について
5月13日 (定例会)	議事	<ul style="list-style-type: none"> ・南アルプス市立学校給食センター条例の一部改正について ・南アルプス市立学校給食センター条例施行規則の一部改正について ・南アルプス市立中央公民館地区分館長及び主事の任命について ・安藤家住宅運営委員の委嘱について ・南アルプス市立図書館条例の一部改正について ・南アルプス市立図書館条例施行規則の一部改正について ・南アルプス市奨学金貸与奨学生の決定について
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・南アルプス市教育委員会5・6月行事予定について ・学校訪問について ・指定学校変更願の報告について
6月2日 (定例会)	議事	<ul style="list-style-type: none"> ・南アルプス市社会教育委員の委嘱について ・南アルプス市子どもの読書活動推進協議会委員の委嘱又は任命について
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・南アルプス市教育委員会6・7月行事予定について ・指定学校変更の許可状況について
7月8日 (定例会)	議事	<ul style="list-style-type: none"> ・南アルプス市南部学校給食センター（仮称）建設委員会設置要綱の廃止について ・南アルプス市学校給食費徴収規則の一部改正について ・南アルプス市社会教育団体の認定について ・南アルプス市中央公民館主事の任命について
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・南アルプス市教育委員会7・8月行事予定について ・指定校変更の許可状況について ・南アルプス市の教育振興プラン策定委員会委員の報告について ・教育委員会の点検・評価報告書作成について

8月4日 (定例会)	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・南アルプス市教育委員会8・9月行事予定について ・指定学校変更の許可状況について ・教育委員会の点検・評価報告書について
9月6日 (定例会)	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・南アルプス市教育委員会9・10月行事予定について ・指定学校変更の許可状況について ・教育委員会の点検・評価報告書について
10月6日 (定例会)	議事	<ul style="list-style-type: none"> ・南アルプス市美術館協議会委員の委嘱について ・指定学校変更の許可について
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・南アルプス市教育委員会後期及び10・11月行事予定について ・指定学校変更の許可状況について ・全国学力学習状況調査について ・南アルプス市の教育振興プラン策定について ・小中一貫教育研究会の経過報告について ・南アルプス市立学校職員の評価結果に対する苦情処理取扱規程について
11月8日 (定例会)	議事	<ul style="list-style-type: none"> ・南アルプス市教育委員会組織条例の制定について ・南アルプス市総合教育会議運営要綱の一部改正について ・南アルプス市教育委員会における障害を理由とする差別の解消の推進に関する職員対応要領の制定について ・教育財産（学校用地）の用途廃止について ・南アルプス市立学校県費負担教職員の人事評価結果に対する苦情処理取扱要領の制定について
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・南アルプス市教育委員会11・12月行事予定について ・指定学校変更許可状況について
12月2日 (定例会)	議事	<ul style="list-style-type: none"> ・南アルプス市就学援助費支給要綱の一部改正について ・指定学校変更の許可について ・公の施設の指定管理者の指定について
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・南アルプス市教育委員会12・1月行事予定について ・指定学校変更の許可状況について

1月10日 (定例会)	議事	<ul style="list-style-type: none"> ・指定学校変更の許可について ・指定学校変更の許可について
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・南アルプス市教育委員会1・2月行事予定について ・指定学校変更の許可状況について ・南アルプス市の教育振興プランについて
2月2日 (定例会)	議事	<ul style="list-style-type: none"> ・南アルプス市コミュニティー館条例の廃止について ・指定学校変更の許可について ・指定学校変更の許可について
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・南アルプス市教育委員会2・3月行事予定について ・指定学校変更の許可状況について
3月16日 (定例会)	議事	<ul style="list-style-type: none"> ・南アルプス市コミュニティー館条例施行規則の廃止について ・南アルプス市青少年育成推進規程の一部改正について ・南アルプス市青少年育成コーディネーター規程の制定について ・南アルプス市教育委員会事務局組織規制の一部改正について ・南アルプス市教育委員会事務決裁規程の一部改正について ・南アルプス市県外スポーツ大会出場費補助金交付要綱の一部改正について ・南アルプス市スポーツ推進委員の委嘱について
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・南アルプス市教育委員会3・4月行事予定について ・指定学校変更の許可状況について

2 教育委員会の活動に対する点検及び評価

教育委員会としての自らの活動内容を「教育委員会の定例会議・臨時会」、「総合教育会議」、「教育委員会と事務局の連携」、「教育委員の自己研鑽」及び「学校・教育施設への支援」の5項目に分け、それぞれに点検項目を設け、教育委員自らがその目的に照らし、評価を行った上で評点し、意見を記載しました。

また、その他の意見シートにおいては、教育委員会事務局の活動の中で、特に気がついた点を記載しました。

(1) 教育委員会の定例会議・臨時会

点検項目	会議の開催回数	評点	3.0
実績	<ul style="list-style-type: none"> ○定例会 12回、臨時会 1回 ・教育委員会会議規則に基づき、定例会を毎月1回開催した。更に必要が生じたため、臨時会を1回開催した。 ・限られた時間の中、効率的な会議運営を図った。 		
評価の視点	<ul style="list-style-type: none"> ①議案はいずれも慎重に審議を行い、内容により継続的に審議を行った。 ②必要な会議の回数は確保されている。 ③判断が難しい議案には、十分な時間をとり慎重な審議が行われた。 		

(2) 総合教育会議

点検項目	会議の開催回数	評点	3.0
実績	<ul style="list-style-type: none"> ○年3回 ・市長召集のもと会議を開催した。 ・市長と教育委員会の連携強化、協力体制による教育行政推進を図ることが可能となった。 ・教育行政の諸問題等について、限られた時間の中で、効率的な会議運営に努めた。 		
評価の視点	<ul style="list-style-type: none"> ①本市が抱えている教育行政に係る諸問題について、意見交換を行うことで、ふるさと教育に繋がれば良いと考える。 ②教育行政のみではなく、児童を支える親、特にひとり親に対して出来るだけ支援が現実的に行われ、安心して児童に親が関わられるよう、既存の条例等を点検し、また、安定した親の関わりをベースに、児童が学校で楽しく学び育っていけるよう、広い視点を大切にしていきたい。 ③総合教育会議で3回にわたり協議を重ね、教育行政の推進に繋がった。 		

(3) 教育委員と事務局との連携

点検項目	情報提供等	評点	3.6
実績	<ul style="list-style-type: none"> ・議案や資料を事前に配布することで、会議等までの調査研究が可能となるよう、情報提供を行った。 ・会議日程についても、事前調整を図り、可能な限り出席できるよう綿密な連絡調整を行った。 ・参考文献等の情報提供についても、速やかに行った。 		
評価の視点	<ul style="list-style-type: none"> ①会議資料等を事前に送って頂く事で、あらかじめ問題点を整理して、会議に臨むことができた。 ②細かな内容となっており、教育委員と事務局の連携が図られた。 		

(4) 教育委員の自己研鑽

点検項目	研修会等への参加	評点	3.0
実績	<ul style="list-style-type: none"> ・中北地区教育委員会連合会県外研修に参加した。 ・南アルプス市教育委員会県外研修に参加した。 ・その他 各種研修会、会議へ参加した。 		
評価の視点	<ul style="list-style-type: none"> ①各種研修会等へ参加することで、教育委員としての知見を深める上で、大変有益であった。 ②各種研修会で行われた講演は、有益な内容であった。 ③静岡県井川小中学校の実践例を聞くことができ、小中一貫教育へ移行する際のポイントや課題などを知ることができた。 		

(5) 学校・教育施設への支援

点検項目	学校訪問	評点	4.0
実績	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の小中学校 22 校の学校訪問を行い、各学校の特色ある学校経営の取組み状況を聴取した。 ・各教室の授業内容を視察し、給食の試食をする中で、学校現場との意見交換を図った。 		
評価の視点	<ul style="list-style-type: none"> ①各学校が抱える課題、児童生徒の実態、教職員の指導力などを理解することができた。 ②各クラスの見学が短時間であったため、児童生徒の実態把握が難しかった。 ③給食の試食については、児童生徒と共にできると、実態把握が深まると考える。 ④各学校の特色と成果が着実に児童生徒の日々の教育に反映されている様子が見えてきた。 		

(6) その他の意見シート

意見	①文化財課の市民全体を巻き込んだ活動は素晴らしく、市のふるさと教育に貢献している。 ②美術館、図書館の取り組みは、小中学生から大人まで幅広く参加できるよう工夫されていた。 ③南部学校給食センターの完成により、児童生徒のみならず、災害時の備蓄を含めた拠点となりえることは喜ばしい。
----	---

IV 教育委員会事務局の事務事業についての点検及び評価

1 教育委員会事務局の事務事業について

南アルプス市では、南アルプス市総合計画を策定し「自然と文化が調和した幸せ創造都市・南アルプス」という将来像を掲げています。教育委員会部門においては、この将来像の実現のため、二つの基本政策が設けてあります。

一つ目の基本政策を「安全でみどり豊かな人がつながるまちの形成」とし、その施策名を「市民参加のまちづくり」としております。

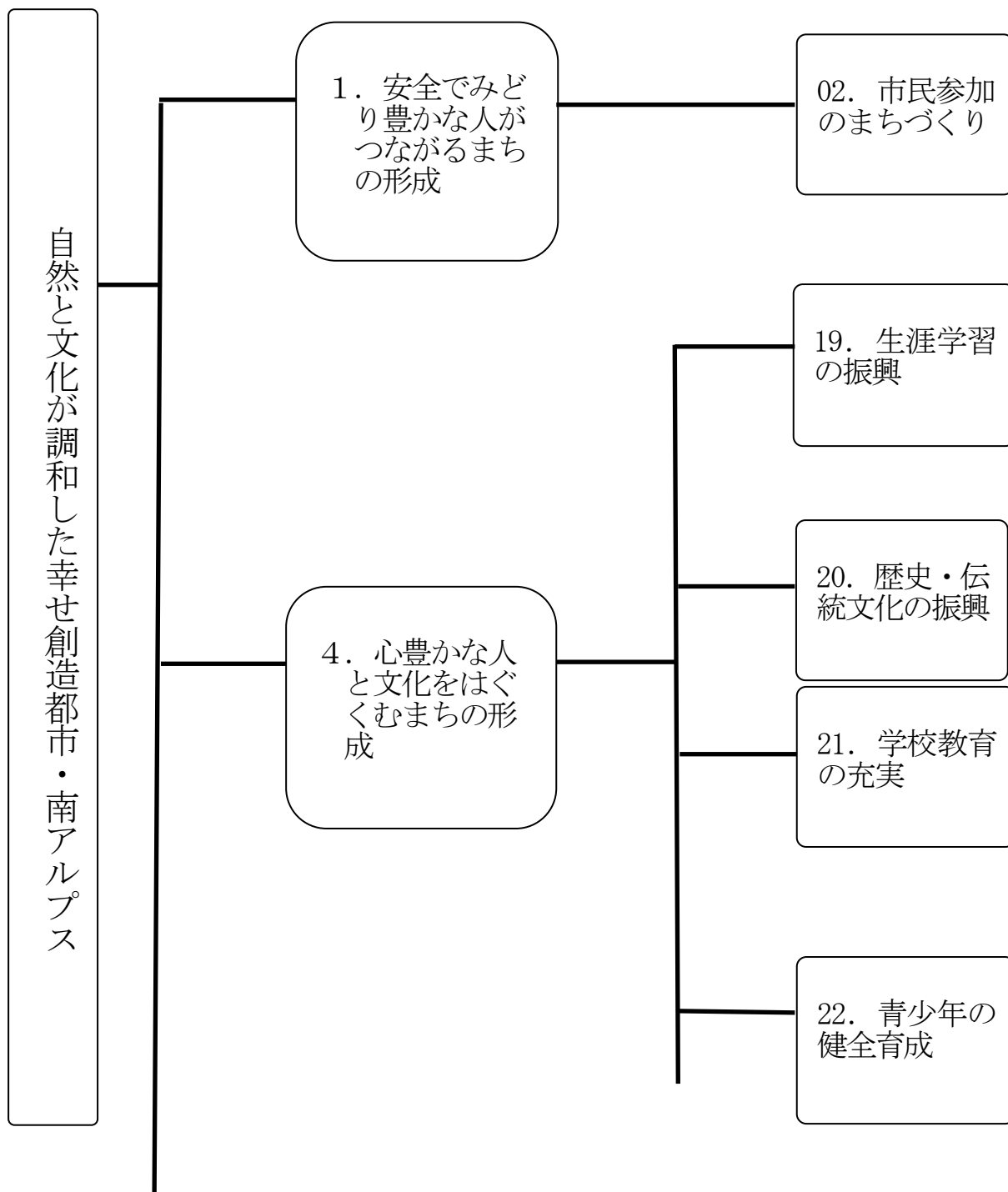
二つ目の基本政策は「心豊かな人と文化をはぐくむまちの形成」とし、その施策名を「生涯学習の振興」、「歴史・伝統文化の振興」、「学校教育の充実」、「青少年の健全育成」としています。

2 第2次南アルプス市総合計画 体系（教育委員会関係抜粋）

〔将来像〕

〔基本政策〕

〔施策名〕



3 教育委員会事務局の事務事業に対する点検及び評価について

(1) 基本政策 : 1 安全でみどり豊かな人がつながるまちの形成

施策名 : 02 市民参加のまちづくり (3事業)

所属 : 生涯学習課

事務事業名	評点	評価の視点
青少年国内交流事業 (津別町)	3	平成28年度は23人(児童・生徒20人、引率3人)の受入で、小笠原小学校児童との交流会を実施し、子どもたちとのふれいあいの時間を持つことができた。今後も継続して実施していく。
青少年国内交流・交流 支援事業(小笠原村)	3	平成28年度は中学生20人が参加。荒天により滞在期間の延長もあったが、山梨ではできない貴重な体験ができ、小笠原村への理解を深めることができた。今後も参加者確保に努力する。
青少年国内交流・交流 支援事業(穴水町)	3	平成28年度は小学生14人が参加。海洋体験など山梨ではできないことを体験することができ、穴水町への理解を深めることができた。

(2) 基本政策 : 4 心豊かな人と文化をはぐくむまちの形成

施策名 : 19 生涯学習の振興 (54事業)

所属 : 生涯学習課

事務事業名	評点	評価の視点
公民館運営管理事業	3	公民館長、主事が中心となり、各地区の公民館活動を実施し、市民の文化向上を図る。平成28年度は2,646人の参加があり、前年比1.9%増とほぼ前年並みの参加者があった。
白根中央公民館運営管理事業	3	公民館長、主事が中心となり、各地区の公民館活動を実施し、市民の文化向上を図る。平成28年度は1講座、85人の参加があり、前年比70%増となった。
生涯学習推進事業	3	市民の学習機会の充実を図り、自主的な学習活動を支援する。講座44回(前年43回)を実施し、参加者1,122人(前年659人)、参加者数は前年比70%増であった。親子向けの講座を開催したことにより、参加者数が大幅増となった。今後も要望が多い講座を継続実施するとともに、新規の講座も開催していく。
社会教育関係団体活動支援事業	3	各地域の社会教育団体21団体に対し補助金を交付し、市民が積極的に社会教育活動に参画する事業。活動休止等により、前年比2団体減。
八田高度農業情報センター運営管理事業	3	指定管理者制度により効率的な管理運営に努めた。市の文化施設の利用しやすさを指標とし、否定的回答は10%未満(5.2%)となっており、施設の利用環境は充実している。

所属 : 生涯学習課

事務事業名	評点	評価の視点
若草生涯学習センター運営管理事業	3	指定管理者制度により効率的な管理運営に努めた。市の文化施設の利用しやすさを指標とし、否定的回答は10%未満(5.2%)となっており、施設の利用環境は充実している。
甲西農村環境改善センター運営管理事業	3	シルバー人材センター等を活用し、効率的な管理運営に努めた。市の文化施設の利用しやすさを指標とし、否定的回答は10%未満(5.2%)となっており、施設の利用環境は充実している。
芦安高齢者コミュニティセンター運営管理事業	3	本施設は、芦安中央公民館としての位置付けである。伝統文化活動の「夜叉神太鼓」の練習場や高齢者のおやつサービスの提供場所としての利用。利用者数は879人(前年739人)で、放課後子ども教室として定期的に利用したことにより、対前年度比は19.0%増となった。公共施設再配置の方針に基づき、老朽化のため、平成30年度に取り壊し予定。
白根コミュニティ館運営管理事業	3	効率的な管理運営に努め、市の文化施設の利用しやすさを指標とし、否定的回答は10%未満(5.2%)となっており、施設の利用環境は充実していた。公共施設再配置の方針に基づき、(仮称)白根生涯学習センターを新設し、平成29年度から本施設は、障害者施設として用途変更し活用。
ふるさと天文館運営管理事業	4	ボランティアグループにより、50cmの望遠鏡を使って天体及び天文現象等の観測及び解説を実施。利用者数279人(前年252人)、対前年比は10.7%増となった。
楡形北地区農村環境改善センター運営管理事業	3	平成28年度から市直営施設として、放課後児童クラブを中心として子育て支援課による管理運営を行ったが、児童クラブ支援員の負担が多くなったため、平成29年度からは生涯学習課による管理運営を行うことになった。市の文化施設の利用しやすさを指標とし、否定的回答は10%未満(5.2%)となっており、施設の利用環境は充実している。
楡形西地区農村環境改善センター運営管理事業	3	平成28年度から市直営施設として、放課後児童クラブを中心として子育て支援課による管理運営を行なったが、児童クラブ支援員の負担が多くなったため、平成29年度からは生涯学習課による管理運営を行うことになった。市の文化施設の利用しやすさを指標とし、否定的回答は10%未満(5.2%)となっており、施設の利用環境は充実している。
南アルプス市働く婦人の家運営管理事業	3	平成28年度から市直営施設として、放課後児童クラブを中心として子育て支援課による管理運営を行なったが、児童クラブ支援員の負担が多くなったため、平成29年度からは生涯学習課による管理運営を行うことになった。市の文化施設の利用しやすさを指標とし、否定的回答は10%未満(5.2%)となっており、施設の利用環境は充実している。
生涯学習指定管理施設等維持補修事業	3	生涯学習施設の緊急修繕や維持補修事業。修繕15箇所、10,216千円を実施。
桃源文化会館運営管理事業	3	市の文化施設の利用しやすさを指標とし、否定的回答は10%未満(5.2%)となっており、施設の利用環境は充実している。
桃源文化振興協会運営支援事業	3	一般財団法人桃源文化振興協会の人件費補助事業である。

所属 : 生涯学習課

事務事業名	評点	評価の視点
≪H27新規≫桃源文化会館施設整備事業(大規模)	3	築30年以上が経過し、老朽化が進んでいる桃源文化会館の建築物調査を平成27年度から実施し、平成28年度に完了した。この調査を基に、改修に向けた実施設計業務委託契約を締結して、平成29年度中の着工に向けた協議を進めてきている。
市文化協会活動支援事業	3	(一財)桃源文化振興協会へ事務を委託しており、各地区の文化団体(H28年度110部2,011人、H27年度100部2,176人)に補助金を交付している。前年度比10部増165人減となっているが、実績報告未提出の団体には補助金を不交付としているため、毎年前後している。生涯にわたって学習活動を行っている割合は31.2%(肯定、やや肯定)で、前年比2.2%増となっている。
スポーツ推進委員運営事業	3	スポーツ推進員が行う教室、大会の参加者数を成果の指標とし、実施した。成果は平成27年度1,667人から平成28年度1,685人に18人、1.1%増加している。今後も参加者が増加するよう継続していく。
南アルプス市体育協会支援事業	3	体育協会主催事業数を成果の指標とし、大会、教室を開催した。桃源郷マラソン大会、市駅伝大会他計11事業を実施した。今後も事業を継続していく。
県外スポーツ大会出場支援事業	3	県代表として、県外大会へ出場する際の経費負担軽減のため、補助金を交付する。今後も県外大会で成果を上げられるよう継続していく。
スポーツ推進審議会運営事業	3	条例で定める諮問機関である。
南アルプス市ホームタウンゲームの活動支援事業	3	ヴァンフォーレ甲府の本市サンクスデーで特産品を配布しPRを実施した。今後も本市PRのため、継続していく。
スポーツ大会等保険加入事務	3	各種スポーツ教室等の傷害保険に加入している。これまで怪我や事故はないが、今後も継続していく。
小中学校ホッケー指導者派遣事業	3	ホッケー大会参加者数を成果の指標とし、指導者を派遣した。平成28年度から小笠原小学校の新規参加があり、指導者を増員した。今後さらに、参加者が増加するよう派遣を継続していく。
市ホッケー大会運営事業	4	ホッケー競技の普及を成果の指標とし、大会を開催した。平成28年度から小笠原小学校の新規参加があり、参加者数が増加した。今後さらに、参加チームが増加するよう大会を開催していく。
全国スポ少ホッケー交流大会派遣・参画事業	3	市ホッケー大会の優勝校を全国大会へ派遣した。今後も市の特色あるスポーツとして出場選手に全国レベルを体感しホッケー競技への意欲を増すとともに技術の向上を図れるよう継続していく。
桃源郷マラソン大会活動支援事業	3	市内外からの参加者が8千人であり、マラソン大会は14回を数え定着してきている。今後も参加者が見込めるため、継続していく。
各種スポーツ教室開催事業	4	参加者数を成果の指標とし、初心者スキースノーボード教室を開催している。平成27年度は73人、平成28年度は95人、30%増加している。今後も参加者が増加するよう継続していく。
平成28年度第45回関東高等学校ホッケー大会支援事業	3	山梨県高等学校体育連盟から要望を受け、平成28年度の単年度事業である。7,8年に一度関東大会が山梨県開催となり、事故や怪我のない大会運営のため負担金を交付。

所属 : 生涯学習課

事務事業名	評点	評価の視点
社会体育施設維持管理事業	3	市民が安全で便利に体育施設を利用し、年間を通してスポーツに親しむため、修繕を実施。社会体育施設等の利用者数は平成27年度671,387人、平成28年度658,149人で前年比1.9%減であった。LED工事等に伴う利用休止期間があったため利用者減となった。今後も継続していく。
社会体育施設指定管理事業	3	指定管理者に適正な管理運営を委託する事業で、社会体育施設等の利用者数は平成27年度671,387人、平成28年度658,149人で前年比1.9%減であった。原因はLED工事等で利用休止期間の増加が考えられる。今後も継続していく。
屋外照明施設LED化事業	3	小中学校グラウンド及び社会体育施設21施設の屋外照明を平成30年度までにLED化に改修し、電気代、球替え等維持管理費を削減していく。平成28年度は7施設の工事を実施した。
《H28新規》八田高度農業情報センター改修事業	3	公共施設再配置計画に基づき、八田窓口サービスセンター入居に伴う改修工事の設計及び音響設備配線調査を実施。平成29年度末の完成に向けて関連部局との調整を進めていく。
《H28新規》若草生涯学習センター改修事業	3	公共施設再配置計画に基づき、若草窓口サービスセンター入居に伴う改修工事の設計を実施。工事監理業務委託料と工事請負費を繰越し、平成29年度5月の完成に向けて関連部局との調整を進めていく。
《H28新規》白根生涯学習センター建設事業	3	公共施設再配置計画に基づき、(仮称)白根桃源図書館・白根生涯学習センター建設工事の設計業務委託契約を締結。予算を繰越しし、平成29年度の着工に向けて関連部局との調整を進めていく。

所属 : 市立図書館

事務事業名	評点	評価の視点
市立図書館維持管理事業	3	市内各図書館の施設及び備品の適切な維持管理に努め、市民が安全で快適に利用できる環境を提供した。今後も施設の維持管理に関わる委託契約・支出業務、備品の状況確認を行い、施設内の環境美化に努める。
市立図書館運営事業	4	市立図書館の円滑な運営を行い、読書活動や学習活動を高めるため館内掲示や特集コーナーの充実を図った。成果指標のレファレンス(調査相談)件数は5,906件で前年比8%増となった。
市立図書館資料提供事業	3	市内各図書館では、新聞39紙・雑誌365誌を市民に提供している。雑誌の貸出数は31,271冊で前年比4%減。インターネットからも最新情報を得られることが要因として考えられる。今後も継続して、資料としての最新情報を提供していく。
市立図書館子どもの読書活動推進事業	3	おはなし会、図書館クイズラリー、環境講座、感想文おたすけ隊、詩を楽しむ会、子ども工作ショー等を実施し読書活動の推進を図った。成果指標である18歳以下の貸出点数は、73,585冊で前年比15%増。今後も関係機関と連携を図り事業を継続していく。

所属 : 市立図書館

事務事業名	評点	評価の視点
図書館協議会運営事務	3	年3回、図書館協議会を開催し、市立図書館の運営について協議した。成果指標である提言・意見等の答申の数は達成度100%。今後も要望や意見を図書館運営に反映させていく。
図書館システム管理事業	3	定期的にシステム会議を実施し、図書館システムの安全な管理を行った。今後も安定的な環境を維持しシステムの運用を図っていく。
図書館生涯学習推進事業	4	定期的な朗読会のほか、シニア講座、教養講座、・ボランティア養成講座・ビジネス支援講座等多様な学習機会を提供し、生涯学習支援及び図書館利用の拡大を図った。図書館事業参加者数は4,033人で前年比33%増。今後も魅力的な講座を企画し周知していく。
ブックスタート事業	3	健康増進課で実施している4ヶ月健診時に、市内で生まれた全ての赤ちゃんと保護者にブックスタートパックを配布した。「おはなし会0.1.2」の参加者は1,625人。今後も健康増進課と連携しながら継続していく。
図書館資料購入事業	3	選書会議を週1回行い、購入資料の検討により購入している。資料貸出総数は413,475冊で前年比0.7%増。今後も市民の暮らしに役立つ資料の収集を継続していく。
図書館事務研修事業	3	職員研修会に積極的に参加した。成果指標である研修参加者数は達成度100%。今後も図書館の動向や資料情報を得て、図書館運営に反映させていく。
楡形生涯学習センター管理事業	3	平成26年度より市の直営となり、効率的な管理・運営に努めている。利用者の満足度も高い。今後も環境美化や安全管理に努め、市民が利用しやすい管理・運営をしていく。
図書館司書臨時職員配置事業	3	市立図書館の円滑な運営を図るために、司書臨時職員を配置し、効果的な図書館運営を行った。今後も現状を維持し、よりよい図書館運営を行う。
《H28新規》甲西図書館拡張事業	4	隣接する甲西支所入口ホール部分を改修し、図書館部分を67㎡増床し、市民が利用しやすい読書環境にした。
《H28新規》楡形図書館リニューアル事業	4	楡形図書館の改修・整備を行い、中央図書館として、時代のニーズに合い市民が利用しやすい図書館としてリニューアルを行った。また、同時開館したふるさと人物室の円滑な運営に努め、ふるさと教育を推進した。

所属 : 市立美術館

事務事業名	評点	評価の視点
市立美術館維持管理事業	3	美術館の環境を整備し、来館者が安全で気持ちよく作品や施設を観覧できるように努める。また、収蔵作品が良好な状態で保管できるように維持管理を行っていく。
美術館企画展事業	3	本館の主要所蔵作家である名取春仙の生誕130周年を記念し企画展を実施した。新しい作品や高い芸術文化に接することにより市民の文化意識を高める。また、入館者の増加促進に繋げていく。
春仙美術館常設展	3	名取春仙はもとより、南アルプス市や山梨にゆかりのある作家を中心に展示を行ってきた。当館コレクションから話題性のある作品を展示することにより、親しみがあり、芸術文化の楽しみを発見できる事業を展開していく。
白根桃源美術館維持管理事業	3	適切な維持管理を行った。

(3) 基本政策 : 4 心豊かな人と文化をはぐくむまちの形成

施策名 : 20 歴史・伝統文化の振興 (23事業)

所属 : 生涯学習課

事務事業名	評点	評価の視点
夜叉神太鼓保存会活動支援事業	3	地域の伝統芸能の保存と継承に努め、地域の交流を深めた。会員数は前年比1人増の11人。
甲州遠光太鼓保存会活動支援事業	3	地域の伝統芸能の保存と継承に努め、地域の交流を深めた。会員数は前年比3人増の18人。
小笠原長清公顕彰会活動支援事業	3	地域の伝統芸能の保存と継承に努め、地域の交流を深めた。小笠原流流鏑馬、小笠原流礼法講座(全10回)を開催した。礼法講座の参加者は、前年と同数の40名であった。
西新居御崎神社神楽保存会活動支援事業	3	地域の伝統芸能の保存と継承に努め、地域の交流を深めた。平成27年度から活動を再開し、会員数12人で活動を行っている。

所属 : 文化財課

事務事業名	評点	評価の視点
文化財保護活用事業	3	文化財等を地域の宝として次世代に伝えていこうとする市民の割合を指標とし、実績値は79.5%で前年比100%であった。今後とも文化財を適切に保護・保存するよう努めていく。
文化財教育普及事業	4	実施した講座等の回数、参加人数を指標とし、達成率それぞれ132%(250回)、169%(13,720人)であった。今後とも地域ニーズをくみ上げつつ、より効率的な事業執行に努めていく。
宝珠寺のマツ松くい虫防除支援事業	3	同木が樹勢を保った年数を成果の指標とし、文化財所有者の行う松くい虫防除事業の補助を行った。合併後13年間木の状態は良好に保たれている。今後も補助を継続していく。
鏡中条のゴヨウマツ松くい虫防除支援事業	3	同木が樹勢を保った年数を成果の指標とし、文化財所有者の行う松くい虫防除事業の補助を行った。合併後13年間木の状態は良好に保たれている。今後も補助を継続していく。
長谷寺の防災施設保守点検支援事業	3	建造物が良好に維持された年数を成果の指標とし文化財防災施設保守点検事業の補助を行った。合併後13年間建造物は良好に保たれている。今後も補助を継続的に実施していく。
文化財教育普及看板設置事業	3	本年度は、地域から要望のあった、「若宮八幡神社の神楽」の説明板を刷新した。今後とも、市民が市の歴史に親しみを持てるような情報発信を行っている。
フィールドミュージアムふるさと学芸員育成事業	3	指標とした伝承館の入館者数は7,370名と達成率112%、育成人数は100%である。育成したふるさと学芸員は、着実に力をつけ、実際にイベントなどでの教育普及の実践も行っている。

所属 : 文化財課

事務事業名	評点	評価の視点
《H28新規》芦安伝統文化継承事業	3	芦安地域の活性化の基礎となるよう、本年度は地域の小正月行事等の民俗調査を実施するとともに、老朽化した文化財案内板の刷新等を行った。
《H28新規》木造夢窓国師坐像保存修理事業	3	国庫補助事業。年度内に当初設計どおりに事業が100パーセント完了し、実績報告書が出されている。
埋蔵文化財調査受託事業	3	民間開発に伴う埋蔵文化財の発掘調査2件、市道建設に伴う発掘調査2件を受託し、適切に記録保存措置を図った。達成率100%
市内試掘確認調査事業	3	市内の遺跡の保護が図られた数を成果の指標とし、達成率は100%。試掘数は31件で前年比129%。市内公共施設再配置等に伴う案件が増加している。
埋蔵文化財保存活用事業	4	同事業のひとつである体験イベントは、昨年比179%（470人）参加を得るなど事業全体が全体に堅調に推移した。今後とも、埋蔵文化財の保護について理解を得られるよう事業展開したい。
国指定史跡「御勅使川旧堤防」整備事業	3	保存整備検討委員会を年2回開催し、史跡整備の基本計画について有識者や地元代表者等の意見をうかがった。成果は平成29年度に策定予定の保存整備計画に反映していく。
ふるさと文化伝承館（文化財調査事務所）維持管理事業	3	資料の適切な保管、入館者の安全な利用はできていたと考えられる。文化財等を地域の宝として次世代に伝えていこうとする市民の割合を指標とし、実績値は79.5%で前年比100%であった。
ふるさと文化伝承館運営事業	3	文化財等を次世代に伝えていこうとする市民の割合は実績値で79.5%。前年比100%。入館数は7,370人で前年比103%。今後とも歴史・文化に対する市の理解の高まるよう事業展開していく。
安藤家住宅運営管理事業	3	入館者数は5,450人、昨年度比98.2%と微減したが、5,000人台半ばを維持している。今後とも来館者増を目指しながら、重要文化財そのものの価値を損なわないように適切に管理・運営していく。
安藤家住宅イベント開催事業	4	本年度も「秋祭り」をはじめ、多様なイベントを開催した。内容は例年見直しを行っており、イベント年間入館者は3,397人で112%増となった。今後も市民ニーズにあったイベント企画を心がけたい。
《H27新規》フィールドミュージアム推進事業	3	市民参加のワークショップを経て事業の基本方針が策定され、これを平成29年度予算に反映させることができた。併せてスタートアップイベント（まち歩き）等により事業周知を図った。
《H28拡充》御勅使川旧堤防史跡追加指定環境整備事業	3	平成27年度に公有地化を行った土地と隣地の境界線上にフェンスを設置し、史跡範囲を明確に示した。今後の管理徹底を図っていく。

(4) 基本政策 : 4 心豊かな人と文化をはぐくむまちの形成

(1) 基本政策 : 1 安全でみどり豊かな人がつながるまちの形成

施策名 : 21 学校教育の充実 (75事業)

所属 : 教育総務課

事務事業名	評点	評価の視点
教育長交際活動費	3	教育行政執行のために必要な外部との交際上の必要経費である。今後も内部基準に照らし、厳正に執行されるよう管理していく。
教育委員活動事業	3	学校訪問の実施及び教育研修など積極的に行い、知識向上を図った。
教育委員会事務局管理事務	3	節電の励行やコピー用紙のリサイクルなど、無駄のない予算管理に努めた。
市単講師派遣事業	3	目的どおり34人の市単講師等を配置し、支援を必要としている児童生徒に対して、きめ細かな指導をすることができた。支援が必要となる児童生徒は増加傾向にあるので、市単講師の増員が課題である。
司書臨時職員配置事業	3	目的どおり12人の臨時職員を配置し、全ての学校に司書を配置することができた。今後も現状を維持し、学校図書館の有効活用を支援する。
用務員臨時職員配置事業	3	目的どおり芦安小中学校を除く学校に用務員を配置することができた。今後も現状を維持し、児童生徒が快適に学校生活を送ることができるよう支援する。
学校図書館蔵書管理事業	3	予算執行率98.6%。学校図書館の蔵書、貸出等をシステムで管理するとともに、学校間及び公立図書館とも情報共有を行うことができた。今後も学校図書館の有効活用を図るため継続していく。
学事管理事務	3	予算執行率98.5%。学齢簿の管理や転学等の学事事務を円滑に実施することができた。さらに、学校予算のうち学事管理事務を一括計上できるものは予算を集約し、歳出の削減に努めた。
学校敷地内樹木維持管理事業	3	予算執行率99.8%。教育総務課へ予算を一括計上。学校環境の安全性の向上を目的に芦安小中学校を除く学校敷地内の危険な高木の剪定や伐採を行った。平成27年度より実施し、平成28年度をもって廃止。
栄養士・調理員管理事業	3	楡形・甲西地区の給食施設に勤務している市単栄養士及び調理員の賃金を支出している。休暇代替、アレルギー対応の調理員を常に確保し、安心して業務を行えるよう取り組んでいる。
学校給食費徴収事業	3	99.3%の収納率を成果の指標として徴収率の向上を図り、徴収率は99.07%で概ね達成できた。今後は他市町村の徴収方法等を参考に更なる徴収率の向上を目指す。
学校給食費支援事業	3	小中学校へ3人以上の子どもが通っている保護者を対象に支給した。申請者は227人、支給者は222人であった。学校との連絡を密に行い、申請漏れのないように努めたい。

所属 : 教育総務課

事務事業名	評点	評価の視点
中巨摩学校給食調理員 部会参画事業	3	調理員の資質向上のために実施されている研修会に全員参加し、目標を達成できた。今後も調理員全員が参加できるようにしていく。
巨摩高校定時制教育振 興会参画事業	3	本市のほか、地域自治体（富士川町、中央市）や生徒の雇用主、同窓会等で組織され、生徒の部活動、国際交流事業、校外活動などの支援を目的として負担金を支出している。今後も適正に執行されるよう管理していく。
学校災害補償保険事業	3	学校施設の瑕疵等、財物の滅失等の損害、学校管理下における児童生徒等の事故等の災害に対する保険に加入。適正に事務を執行した。
小中学校清掃委託事業	3	予算執行率95.8%。教育総務課へ予算を一括計上。入札により選定した業者により小中学校22校の校舎、体育館等の清掃を行い、学校環境の快適さの向上に努めた。今後も適正な業者選定と清掃の実施に努める。
第二次小中学校教育系 情報ネットワーク整備 事業	3	予算執行率99.9%。事務効率の向上のため教職員に一人1台PCの設置や校務支援システムの提供等を行い児童生徒と向き合う時間の確保に努めた。また、平成27年度に導入したタブレット型端末の保守を行った。
学校給食食材放射線検 査事業	3	各給食施設が隔月、2検体（食材）ずつ検査を行っている。これまで市が定めた給食食材への利用基準を超えた放射線量は検出されていない。複数の施設の食材をまとめて持ち込むようにするなど事務の合理化を図っている。
若草南小学校情緒障害 通級指導教室	3	予算執行率94.1%。若草南小に設置されている通級教室に係る消耗品費等の経費。市立小学校の普通学級に所属する軽度の情緒障害児童を対象に音楽療法を行っている。より良い発達につながるため、今後も継続していく。
学校消火器管理事業	3	予算執行率81.5%。教育総務課予算へ一括計上。法令上期限切れとなる市立小中学校に設置済みの製造から10年を経過する消火器の入替を行った。今後も継続して入替えを行っていく。
小林愛則育英奨学会支 援事業	3	将来社会の中核となる人材を育成することを目的とし、高校3年間奨学金を給付している。平成28年度では8名へ奨学金の給付を行った。
芦安活性化対策育英奨 学金貸付事業	3	芦安地区の過疎対策事業として育英奨学金貸付事業を行っている。平成28年度においては、新規奨学生として1名へ貸与を行った。
南アルプス市奨学金貸 与事業	3	申請により高校生及び大学生の保護者に対し、要件審査を経て適正な事務処理により奨学金を貸与した。
小学校管理費	3	予算執行率99.9%。教育総務課予算へ一括計上。自家用電気工作物保安管理、機械警備、浄化槽管理清掃の委託料。今後も継続し学校設備等の維持管理に努める。
小学校地域ふれあい道 徳教育推進事業	3	児童の「心の教育の充実」を図るため、地域の人々のふれあいを中心とした道徳教育を行うための事業。1校当たり4万円の事業費。主に講師謝金に支出。今後も現状を維持して学校教育の充実を図る。

所属 : 教育総務課

事務事業名	評点	評価の視点
小学校要保護就学援助及び特別支援教育就学奨励費事業（補助）	3	予算執行率99.6%。要保護世帯の児童3人の保護者に対し修学旅行費を、特別支援学級に在籍する児童49人の保護者に対し特別支援教育就学奨励費を支給し援助することができた。今後も適正な事務の執行に努める。
小学校準要保護就学援助事業（単独）	4	予算執行率90.5%。準要保護世帯の児童360人の保護者に対し就学援助費を援助することができた。さらに、新たに新入学用品費の入学前支給も実施することができた。今後も適正な事務の執行に努める。
小学校施設設備整備事業（単独）	3	予算執行率87.69%。学校からの修繕・改修要望に対し整備できた校舎、屋内運動場等の箇所数を成果指標としている。学校要望を精査し、緊急度の高い施設から整備することができた。
《H26新規》八田小学校校舎大規模改造事業	3	老朽化が著しい校舎（普通教室棟、特別教室棟、食堂棟）に対する大規模改造工事を実施する。H28年度は、食堂棟の改造工事を予定どおり実施し、事業を完了した。
《H26新規》若草小学校屋外プール改築事業	3	老朽化が著しい屋外プール及びプール附属屋の改築工事を実施する事業である。H28年度は、工事を予定通り実施し、事業を完了した。
《H26新規》空調設備設置事業（小学校施設）	3	市内小学校へ空調設備を設置する。H28年度は、工事を予定どおり実施し、事業を完了した。
《H27新規》豊小学校校舎大規模改造事業	3	老朽化が著しい校舎に対する大規模改造工事を実施する。H28年度は、予定どおり工事を実施することができた。
《H27新規》落合小学校屋内運動場改築事業	3	老朽化が著しい屋内運動場の改築工事を実施する。H28年度は、予定どおり実施設計を実施することができた。
中学校管理費	3	予算執行率99.6%。教育総務課予算へ一括計上。自家用電気工作物保安管理、機械警備、浄化槽管理清掃の委託料。今後も継続し学校設備等の維持管理に努める。
中学校部活動コンクール・コンテスト参画事業	3	芦安中学校を除く中学校の合唱部や吹奏楽部等が各種大会に参加するための負担金の支払いを行った。今後も現状を維持し、生徒の文化的活動の場を広げていく。
中学校ヘルメット購入支援事業	3	芦安中学校を除く自転車通学の生徒が補助対象。自転車通学の250人に対し、ヘルメット購入代金の半額を補助した。今後も現状を維持して生徒の登下校時の安全性の向上を図る。
中学校地域ふれあい道徳教育推進事業	3	生徒の「心の教育の充実」を図るため、地域の人々のふれあいを中心とした道徳教育を行うための事業。1校当たり4万円の事業費。主に講師謝金に支出。今後も現状を維持して学校教育の充実を図る。
中学校関東大会・全国大会支援事業	3	予算執行率76.5%。学校教育活動の一環として県外で行われる関東、全国大会に出場する経費の一部を補助した。部活動の充実やスポーツへの意欲の向上のため、今後も継続していく。

所属 : 教育総務課

事務事業名	評点	評価の視点
中学校要保護就学援助及び特別支援教育就学奨励費事業（補助）	3	予算執行率94.7%。要保護世帯の生徒4人の保護者に対し修学旅行費を、特別支援学級に在籍する生徒16人の保護者に対し特別支援教育就学奨励費を支給し援助することができた。今後も適正な事務の執行に努める。
中学校準要保護就学援助事業（単独）	4	予算執行率89.7%。準要保護世帯の生徒221人の保護者に対し就学援助費を援助することができた。さらに、新たに新入学用品費の入学前支給も実施することができた。今後も適正な事務の執行に努める。
中学校施設設備整備事業（単独）	3	予算執行率73.41%。学校からの修繕・改修要望に対し整備できた校舎、屋内運動場等の箇所数を成果指標としている。学校要望を精査し、緊急度の高い施設から整備することができた。
小林愛則育英奨学基金積立金	3	基金へ預金利子を積み立た。今後も適正な執行に努める。
南アルプス市奨学基金積立金	3	基金へ預金利子及び貸与者からの返還金を積み立た。今後も適正な執行に努める。
《H27新規》八田中学校校舎等非構造部材耐震化事業	3	国の基準に基づく、非構造部材の耐震化を実施する事業である。H28年度は、予定どおり工事を実施した。
《H27新規》白根巨摩中学校校舎等非構造部材耐震化事業	3	国の基準に基づく、非構造部材の耐震化を実施する事業である。H28年度は、予定どおり工事を実施した。
《H27新規》白根御勅使中学校非構造部材耐震化事業	3	国の基準に基づく、非構造部材の耐震化を実施する事業である。H28年度は、予定どおり工事を実施した。
《H27新規》櫛形中学校校舎等非構造部材耐震化事業	3	国の基準に基づく、非構造部材の耐震化を実施する事業である。H28年度は、予定どおり工事を実施した。
《H28新規》白根源小学校非構造部材耐震化事業	3	国の基準に基づく、非構造部材の耐震化を実施する事業である。H28年度は、実施設計を実施することができた。
《H27新規》白根御勅使中学校改築事業	3	校舎外壁非構造部材耐震化事業において、普通校舎の躯体に問題箇所が発見され、専門家による調査分析を行ったところ、改築の必要性が示された。H28年度は実施設計及び工事を実施した。
《H28新規》若草中学校テニスコート整備事業	3	市公共施設再配置計画に基づく事業である。H28年度は、予定どおり測量と不動産鑑定を実施した。
《H28新規》若草小学校非構造部材耐震化事業	3	国の基準に基づく、非構造部材の耐震化を実施する事業である。H28年度は、実施設計を実施することができた。

所属 : 市立学校給食センター

事務事業名	評点	評価の視点
学校給食受配校施設改修事業	3	新学校給食センター建設に伴い、各学校給食施設を配膳室に改修する工事である。学校と施行業者と連絡を密に行い、工事を終了した。
白根八田学校給食センター給食事業（学校給食）	3	学校給食を安心安全に提供するため、食文化の多様化による児童のアレルギー食の対応や、食育指導を行った。また、食材の購入については、複数の業者から見積りを徴し、最安値の業者と月ごとに契約を行った。地産地消の食材についても、より多く取り入れるため、市栄養士部会で視察等を行い新規の納入業者の開拓に努めた。
白根八田学校給食センター維持管理事業	3	学校給食を安心安全に児童に提供するため、給食施設及び厨房備品の維持管理を行った。厨房器機の故障などはすぐに業者発注するのではなく、職員が修理を行ったり、他の給食施設から不要なものを使用するなど、経費削減に努めた。
若草学校給食センター給食事業	3	学校給食を安心安全に提供するための事業。食文化の多様化による児童のアレルギー食の対応や、食育指導を行った。また、食材の購入については、複数の業者から見積りを徴し、最安値の業者と月ごとに契約を行っている。地産地消の食材についても、より多く取り入れるため、市栄養士部会で視察等を行い新規の納入業者の開拓に努めた。
《H28新規》白根・八田学校給食センター大規模改修事業	3	H15年4月から新規に運営されてきて以来14年が経過し、所々改修が必要な箇所が出てきているため、調査費用を予算化し業務委託を行った。
若草学校給食センター維持管理事業	3	健康増進課で実施している4ヶ月健診時に、市内で生まれた全ての赤ちゃんと保護者にブックスタートパックを配布した。「おはなし会0.1.2」の参加者は1,625人。今後も健康増進課と連携しながら継続していく。
芦安学校給食センター維持管理事業	3	給食施設に関わる維持管理を行った。
《H25 拡充》新学校給食センター建設事業	3	新学校給食センターについては目標のとおり建設を終了し、今後さらに安心安全な給食の提供を行える施設整備が実現できた。
《H27 新規》新学校給食センター運営事業	3	H28年2学期より、新学校給食センターにより給食の配送を開始した。なお、給食配送車4台を購入するなど、運営に努めた。
《H27 新規》新学校給食センター維持管理事業	3	南部学校給食センターとして、学校給食を安心安全に児童に提供する給食施設及び厨房備品の維持管理を行った。

所属 : 学校教育推進課

事務事業名	評点	評価の視点
《H26新規》授業改善プラン実践事業	3	全国学力・学習状況調査や山梨県学力把握調査の結果を分析し、実態を把握しながら授業改善を図った。外部講師を招聘しながら、年2回の公開研究会を行い、その成果を還流した。研究会には市内外の小・中学校の教職員が参加し、研究を深めることができた。
教育支援センター運営管理費	3	学校へ登校することが困難な生徒への学習支援・教育相談を行ってきた。保護者や学校と連携を図る中で、学校復帰・高校進学を目指して取り組んだ。在籍者11名のうち、学校復帰3名、高校進学4名(3年生全員合格)。また、保育所及び小中学校への巡回訪問、教育相談等を行った。特性をもつ児童生徒が、自らの力を発揮できる教育環境について協議するとともに、臨床心理士による助言や心理相談等を行った。
英語教育強化地域拠点事業	3	白根地区(白根飯野小・白根東小・白根巨摩中・白根高校)の指定校を中心に、英語によるコミュニケーション能力の育成に取り組んできた。指導と評価の一体化、地域人材の活用した授業形態を検証し、異校種間連携や教職員研修を計画的に行うとともに、市内22校に広めるための協議会を実施した。
《H27拡充》学びの質を高める授業づくり推進事業	4	指定校(2年次:南湖小・楡形中 1年次:若草南小)を定め、児童生徒が互いの意見や考え方を聴き合い、学び合う授業づくりを目指し研究を深めた。また、授業公開によって、研究内容を市内の小中学校に示した。年度末には教育委員会を主催とし、市内22校の教職員を対象とした成果報告会と講師を招聘しての教育講演会を実施した。
南アルプス自然体験推進事業	3	ユネスコスクールに認定されている芦安小・中学校を指定校として、南アルプスの自然を学ぶ体験活動を行っている。特に、芦安ファンクラブの支援を受けて中学校では鳳凰三山、小学校では3、4年生は夜叉神峠、5、6年生は楡形山への登山を行った。
いじめ・不登校未然防止推進事業	3	小学校3年、5年、中学校1年でQ-U検査を実施し、学級、学年の集団分析を行い、いじめや不登校の未然防止、早期解消に向け、その活用を図った。また、教育講演会を実施し、困難を抱える児童生徒やその保護者の理解、学校としての支援のあり方等について研修を深めた。
スクールガードリーダー事業	3	児童生徒が安全に安心して登下校できるように、通学路の巡回や学校周辺のパトロールを実施した。また、県の研修会に参加したり、打ち合わせ会議をもったりして、研鑽を積むことができた。
教育推進管理事務	3	指導主事等が研修に参加し、その成果を市内22校に還流しながら、必要な指導・助言を行った。また、教育雑誌や研修等から得られた最新情報、研究結果等を学校訪問や研究会の折に提供した。
南アルプス市学校応援団育成事業	3	各中学校区のコーディネーターを中心に、地域ボランティアを募り、見守り隊を含め500名以上の方の登録を得た。特に、小学校においては読み聞かせや農業体験をはじめとした体験活動等、学校の要望に対応した講師を派遣することができた。教科学習における学習支援的な要望も増えているので、それらに対応していく必要がある。
南アルプス市姉妹都市国際交流プログラム推進事業	4	小学生を対象とした英語に慣れ親しむための体験活動プログラムである。北伊奈ヶ湖湖畔を利用して日帰りのプログラムを2日間行っている。実際に英語を使って活動することが実生活の中にはないため、貴重な体験となっている。

所属 : 学校教育推進課

事務事業名	評点	評価の視点
芦安教育推進事業	3	芦安地区の活性化のため、芦安地区の特色である英会話科や自然体験活動の充実等を中心に、小中学校が連携して行う教育活動のPRを主眼を置いて取り組んでいる。学校説明会に先立ってのチラシの作成や英会話科に関わる消耗品の購入に充てている。
小中学校における小笠原流礼法推進事業	4	小笠原流礼法宗家本部と関わりながら、礼法指導を行う師範を2人配置し、学校を分担しながら、一貫した指導課程によって、小・中9年間を通した取組となっている。実技講習や卒業証書授与伝達講習会等、教職員の研修も実施し、心の教育の充実を図ってきた。ふるさと教育の主軸の活動である。
外国語指導講師配置管理事業	3	9名のALTを配置し、小・中学校において英語におけるコミュニケーション指導を行った。通常の授業の他、教職員の英語力・指導力アップのための研修、小学生対象のイングリッシュキャンプ、英語教育強化地域拠点事業への協力にも活用した。
小中一貫教育調査事業	3	地域や学校の実態、特性に応じた学校運営協議会の組織・運営と、それを活用した教育活動の調査・研究を行った。特に芦安小中学校については、隣接していることもあり、将来的な小中一貫校に向け検討した。

(5) 基本政策 : 4 心豊かな人と文化をはぐくむまちの形成

施策名 : 22 青少年の健全育成 (10事業)

所属 : 生涯学習課

事務事業名	評点	評価の視点
放課後子ども教室事業	3	平成27年度はスラックラインを含む6教室を実施、参加延べ人数は1,058人。平成28年度当初は5教室の開催だったが、1月から子ども基礎体力作り教室を加え6教室となった。参加延べ人数は、981人、7.3%減であった。今後は教室内容を精査し、市内全域に周知を行ななど開催方法を検討していく。
情報機器教育推進事業	3	平成28年度から新規事業として、子どものインターネットの取り扱いに対する講演会や出前講座を2回開催した。また情報モラルに関するチラシを作成し、講演会や窓口で配布するなど注意喚起を促した。
青少年育成カウンセラー設置事業	3	カウンセラーが事務局となり、地区単位ごとに青少年健全育成のため活動を行っている。地区のコーディネーターとしての役割が大きいため、規程を改正しH29年度より名称を「青少年育成コーディネーター」と改めた。
青少年育成推進会議運営事業	3	市から委嘱された青少年育成推進員112人が青少年のための取り組みに参加している。また市民会議の専門委員会にも所属し青少年の健全育成運動を推進している。夏と冬に啓発チラシを市内全域へ新聞折込を行った。
ジュニアリーダー養成事業	4	中高校生を対象に地域で子どものリーダーとして活躍できる子どもたちを育成するため、月1回研修会を開催している。夏休みには小学6年生も加え66人(前年比10%増)が宿泊研修会に参加した。
成人式挙行事業	3	新成人の門出を祝うとともに、大人としての自覚とリーダーの意識をもち活躍することを願い式典を開催している。成人者810人中693人、参加率85.6%(前年804人中698人参加。参加率86.8%)
市子どもクラブ指導者連絡協議会支援事業	3	76支部ごとに指導者が中心になり、育成会事業が行われている。市主催事業として、親睦球技大会は平成28年度は20チームが参加した。映画上映会参加者は、240人であった。
青少年育成南アルプス市民会議支援事業	4	次代を担う青少年の健全な育成のために青少年の問題を市民全体で考え諸活動を展開している青少年育成市民会議への補助金。H28年度より市民会議を一本化し、各地区を支部と改め活動を行う。
南アルプス市警察署管内少年補導員支援事業	3	少年の非行防止活動の推進及び各種防犯団体等との連携を図ることを目的として活動している協議会への補助金。
キッズタウン南アルプス支援事業	4	職業体験をベースとした青少年育成事業への補助金。H27年度は実施されなかったが、H28年度は小学生約200人が地元業者の仕事を体験し、仕事の意義や大切さを学んだ。